

令和2年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

(No.1)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
(1) 児童生徒の確かな学びにつながる授業改善と専門性の向上を図る。	① チームティーチングの事前や事後の打合せで指導のねらいや評価等の共通理解を行い、効果的な指導となるようにする。	教務課	チームティーチングの充実について、昨年度の学校評価において課題が明らかとなった。授業における評価を中心に取り組みを重点化していく。	【努力指標】 チームティーチングの効果的な手法について、授業実践の中で取り組んでいる。	チームティーチングの効果的な手法(5項目:別途提示)を4項目以上取り組んでいると答えた職員の割合 A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	【達成基準】 A以上	9月と2月に教員にアンケートを実施する
	② 専門性の向上を図り、児童生徒の特性や能力に応じた授業を展開する。	教務課	教員の専門性向上への取組を継続しており、授業のねらいや個別の目標等を明確にし、保護者等に十分に説明できることが必要となる。	【満足度指標】 保護者や関係機関の方々が、本校の授業内容に満足している。	授業参観等で授業内容に満足している保護者や関係機関職員の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	【達成基準】 A以上	参観者にアンケートを実施する
(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。	① 錦城版キャリア教育プログラムを活用し、自己選択や自己決定に関するものを含め、児童生徒一人一人の目標を設定し実践する。	進路支援課各担任	錦城版キャリア教育プログラムの活用は定着してきたが、自立と社会参加・貢献や将来の自己選択・自己決定に向けて、個に応じた選択や決定の能力向上を含め、取り組みの充実を図る必要がある。	【成果指標】 錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に位置づけ、個別のねらいに対して向上が見られる。	キャリア発達面の個別設定の項目で向上が見られた児童生徒の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	【達成基準】 B以上	9月、2月に個人内評価を行う
				【満足度指標】 保護者が、キャリア教育の取組内容に満足している。	キャリア教育の具体的な取り組み内容に満足している保護者の割合 A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月に保護者にアンケートを実施する
	② 進路の手引きを活用しキャリア教育や進路支援の充実を図る。	進路支援課	進路に関する職員の知識量にばらつきがある。進路の手引き等の活用による校内研修会や施設見学等を実施して、専門性の向上を図る必要がある。	【成果指標】 職員のキャリア教育や進路に関する知識量に向上が見られる。	キャリア教育や進路情報等について、チェックシートによる一定の達成度の職員の割合 A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	【達成基準】 B以上	9月、2月に職員評価を実施する

令和2年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

(No.2)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
(3) 安心・安全に関する職員の意識を高め、児童生徒への教育活動の充実を図る。	① マニュアルやヒヤリハット等を参考に、日常の安全管理に留意した行動をとり、事故防止や健康管理を行う。	指導課	近年、重大な事故はないが、軽微な事故は発生している。また、さまざまな配慮を要する児童生徒も多く、安心・安全な学校づくりを推進する必要がある。	【努力指標】 マニュアルやヒヤリハット、事故報告などを参考に日常の安全管理に留意した行動をとっている。	具体的な行動例(自由記述1項目を含む6項目：別途提示)に照らして「A十分に実践している」5項目以上 「B実践している」4項目以上	【達成基準】 A50%以上 かつ A+B100%	9月と2月に職員アンケートを実施する
	② 健康・安全・防災に関する授業や行事等での実践を行う。	指導課 保健課 各部	健康・安全・防災に関する児童生徒への指導は、各部の授業や避難訓練等の行事で行っているが、各自の身近なものとして指導内容を充実させる必要がある。	【努力指標】 授業や行事等で健康・安全・防災に関する指導を積極的に行い、工夫している。	新型コロナウイルス感染症に対応した指導及び学校安全計画に即した指導を行っている職員の割合 A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	【達成基準】 B以上	9月と2月に職員アンケートを実施、実施内容・工夫点も調査する
(4) 教職員が業務の効率化に向け、校内の諸会議の運営改善を進める。	① 諸会議等に関して、業務の効率化を図るため工夫を行う。	教頭	80時間超の超過勤務の職員はいないが、会議等の効率的な運営に工夫改善を行うことにより、職員の時間を有効に使う意識を高めた。	【努力指標】 会議の効率化のために具体的な行動を行っている。	具体的な行動例(自由記述の1項目を含む5項目：別途提示)に照らして、「A十分に実践している」5項目 「B実践している」4項目	【達成基準】 A50%以上 かつ A+B100% ※勤務時間調査結果の分析も加味して評価する。	9月と2月に職員アンケートを実施する

(1) ①の5項目

- ・事前の児童生徒の個別の目標の共通理解
- ・事前の支援内容の共通理解
- ・事前の評価の仕方の共通理解
- ・共通理解を図った事項に注意して授業を行っている。
- ・事後の評価や支援内容の反省に基づく改善策検討

(3) ①の6項目

- ・教室、廊下等のゴミに気付く等、些細なことに心を配る。
- ・教員の目が届いていない場面がないか気を配る。
- ・防火管理責任箇所の整理を行い不要物はない。
- ・必要なマニュアル(個別のものを含む)を確認する。
- ・授業等でのヒヤッとしたことを他の教員と共通理解する。
- ・上記以外で各自が実践していることを1つ自由記述

(4) ①の5項目

- ・会議資料は前日までに配付する。
- ・配付資料に目を通して会議に臨む。
- ・提案や説明の際に「何分間程度」等決めて臨む。
- ・会議時間を短くするように意識している。
- ・上記以外で各自が実践していることを1つ自由記述